

1月の窓

新年あけましておめでとうございます。今年が、皆様にとって素晴らしい1年となることをお祈り申し上げます。

本校の玄関を入ってから2階職員室へ通じる階段に、毎週きれいな花を飾ってくれる先生がいるのですが、その先生から今年の午年にちなんだ飾り付けをしていただきました。「馬」と「午」の字は、書道部2年生の生徒がかいてくれたものだそうです。それにしても左の写真の「馬」は、よくできていますね。走っている馬の絵にも見えます。



1月5日は、二十四節気の小寒でした。寒の入りから寒明けまでの約30日を寒の内と言いますが、この時期の後半が1年で最も寒い時期とも言われます。寒に入っていよいよ寒くなることを、一茶も詠んでいます。

うす壁に づんづと寒が 入りにけり……………一茶

宵過ぎや 柱みりみり 寒が入る……………一茶

二つの句からは、現代のような暖房の整っていなかった頃の家の中が、いかに寒かったかが伝わってきます。

すでに新年となりましたが、12月の学校の様子などを少し紹介します。

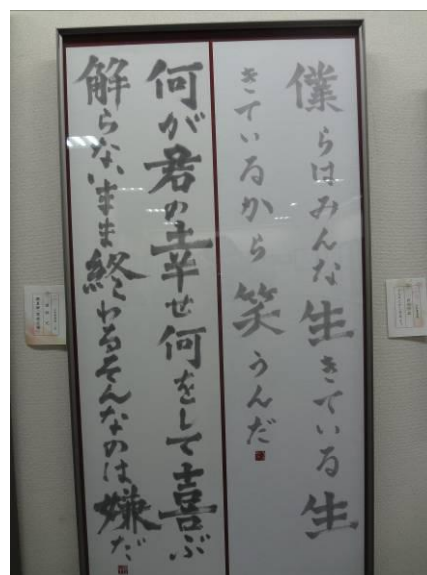
12月中旬の土曜日、本校マンドリン部約30名が、県庁近くの特別養護老人ホームを訪問して、ミニコンサートを行ってきました。10年以上続いているボランティア活動とのことで、ホームの入居者と職員の皆様も楽しみにしておられました。最初に、部員全員が本校の校歌を歌い、その後で演奏を行いました。マンドリン部の演奏曲は最近のものが多いので、ホームの入居者にとってどうなのかという不安もありましたが、この日のために「時代劇メドレー」も準備していました。特に、「水戸黄門」や「必殺」シリーズの曲は皆さん知っているようで、大きな拍手をい

ただきました。最後に、「上を向いて歩こう」と「ふるさと」を演奏し、プログラムの歌詞を見ながら一緒に歌っていただきました。

最初の写真は、壁に貼ってある行事予定ですが、「マンドリン演奏会」もしっかり入れてもらっていました。次の写真は、演奏を聞いていただいているところです。かなり広いホールなのですが、部員が30名以上いるため、ホームの職員の皆様にとって、準備と後片付けもたいへんだったものと思います。私が聞いた限りでは、演奏もうまくいったと思いますが、生徒たちからみると、うまくいかなかったところもあったようで、これからの練習で直していきたいと話していました。



12月13日から18日まで、山形県芸文美術館（ナナビーンズ6階）で、「村山地区高校書道展」が開催されました。毎年この時期に開催されているようで、今年も村山地区の高等学校15校の書道部の78作品が展示されました。他に、顧問の先生の作品も、展示されていました。



本校からは、4つの作品を展示していただきました。最初の写真がそれで、右端と左端の作品は、2年生個人によるもの、中央の二つの作品は複数の生徒による共

同作品です。中央の作品のうち左側にあるものを拡大したのが、次の写真です。どこかで聞いたことのある言葉ですね。昨年10月、94歳でなくなった漫画家やなせたかしさんが作詞した歌の一節です。右側が「手のひらを太陽に」、左側が「アンパンマンのマーチ」からとったものです。

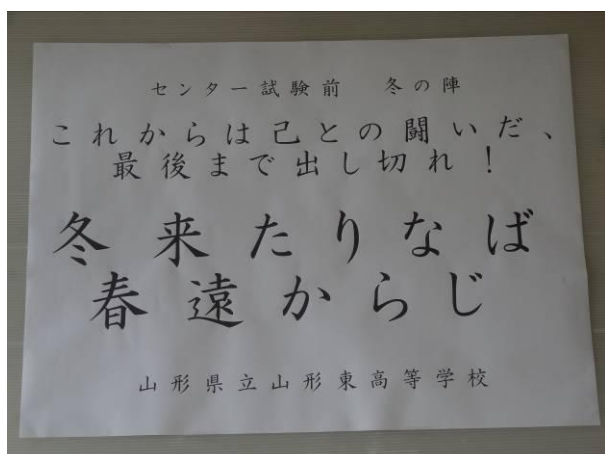
やなせさんは、今でこそアンパンマンの作者として有名ですが、「手のひらを太陽に」が作られたのは今から50年以上も前のことで、当時は、代表作品と言えるものもありませんでした。その当時のことを作詞者のやなせさんは、「厭世的な気分になって追い込まれ、暗い所で自分の手を懐中電灯で暖めながら仕事をしていた時に、ふと手を見ると真っ赤な血が見える。自分は生きているんだということを再発見し、その喜びを謳歌して頑張らなくちゃと、自分を励ますためにこの詞を作った。」と述べています。アンパンマンが絵本やテレビアニメでヒットした頃には、やなせさんはすでに60歳を過ぎていました。東日本大震災直後に、「アンパンのマーチ」のリクエストが殺到し、元気と勇気を与えてくれたのは、記憶に新しいところです。避難所でこの歌を聞いた子どもたちは泣きやみ、この歌詞を聞いた大人は涙を流したとも言われています。

実際、この歌の歌詞の意味はとても深いものがあります。先日NHKで放送された「アンパンマンの夢」という番組で、この曲の出だしの「何の為に生まれて何をして生きるのか 答えられないなんてそんなのは嫌だ」という一節を大人に見てもらったところ、「哲学者の言葉ですか」という返事もありました。書道部の生徒が書いてくれた「何が君の幸せ何をして喜ぶ 解らないまま終わるそんなのは嫌だ」は、ちょうど二番の出だしの一節になります。

さて、いよいよ受験シーズンも本番となりますが、大学入試センター試験は1月18～19日に実施されます。本校からはほとんどの3年生が受験しますが、1月4日～5日に直前模試を終え、すでに推薦等で進学が内定している生徒も講習や模試と一緒に受けており、ともにセンターを受験することになります。3年生の廊下には、秋の檄文に代わって、写真のような檄文が掲げられています。

中学3年生にとっても、いよいよ受験のシーズンとなります。公立高校では12月11日から入試の募集要項を配布しております。私立高校は、年が明けると、推薦入試そして一般入試と続いていきます。公立の普通科では今年から推薦入学者選抜がなくなりましたが、専門学科では2月6日に従来どおり推薦入学者選抜の面接等が実施されます。2月19日から一般入学者選抜の願書受付が始まり、3月10日の学力検査、17日の合格発表と続いていきます。高校側としては、ミスの許さ

れない業務ですので、慎重に進めるのはもちろんですが、受験生の皆さんがあまり緊張しないで受験できるよう努めていきたいと考えております。受験を控えた中学生の皆さん、最後まで勉強に集中してがんばってください。



最後に、校内にある芸術作品として、1階中央廊下にある写真を紹介します。

最初の写真に4枚の写真がありますが、本校管理棟北東側にある和風庭園のユリノキを撮影したものです。撮影したのは、本校旧職員で7年前まで学校司書を務められた鈴木喜恵子先生で、左から、春、夏、秋、冬のものであります。次の写真は、本日同じ木を撮影したものです。よく見ると、鈴木先生の写真には、東屋が写っていますが、現在の写真には写っていません。長く勤務されている先生に聞いたところ、数年前、雪の重みでつぶれてしまったそうです。

